

東播磨ふれあいネット (BAN-BANテレビ 11チャンネル)
播磨町・稲美町・加古川市・高砂市の情報番組です。

11月の放送予定 (収録場所 高砂市)
前半 10月29日(月)~11月11日(日)
●特集 まち全体が博物館!~加古川まちかどミュージアム~ (加古川市)
●ふれあいインフォメーション (各市町からのお知らせ)
後半 11月12日(月)~25日(日)
●特集 広がれボランティアの輪~第5回ボランティアまつり~ (稲美町)
●ゆうゆうライフ (高砂市)

放送時間 (第1・3月曜日の①以外は再放送) 30分番組
月・水・金 ①午前10時 ②午後5時 ③午後10時
火・木 ①正午 ②午後7時
土・日 ①午前9時 ②午後6時 ③午後11時

いいね! はりま

町政
レポート
No.10



▲考古博物館開館前見学会にて

撫子、葛、桔梗、萩、藤袴、尾花、女郎花は秋の七草です。部屋に飾ると、そこだけ秋の野のようになりました。ゆく秋を惜しんで、いろいろな場に出掛けたいですね。

■大中遺跡に県立考古博物館がオープンしました。式典終了後一般にも公開され、多くの方が弥生や古墳時代などを再現した異空間を楽しまれました。大中遺跡、喜瀬川、であいの道、であい公園、北公園など周辺の自然と一体になって、さらに魅力的な憩いの場になるのではと思います。多くの方にご利用いただきたいと思っています。

また、これにあわせて町の新たな特産品もいくつか生まれました。「やよいちゃん」「いせき君」のキャラクター、大いに活用してくださいね。

■10月1日から、庁舎窓口案内を1階ロビー入口に設置(試行)しました。3月議会でこの予算が否決されたため、専門の係りを置くことができず、今回は役場のリーダー以上の管理職40人に対応しました。播磨町は他町に比べて転入、転出が多い町で、1日平均400人以上の人が来庁されます。町や庁舎に不慣れな方や高齢者も多く、窓口案内は利用者に喜んでいただけたようです。

今回は試行ですから10月末までですが、試行結果を踏まえて、予算化を再検討したいと考えています。「来庁者にやさしい庁舎」でありたいと思っています。

■9月26日朝、BAN-BANラジオに出演しました。BAN-BANテレビでお馴染みのスパイシー八木さんのインタビューに答えるという設定(生放送なのでちょっと緊張!)でしたが、意外に短く感じられました。ラジオは、いつでもどこでも聞かれます。災害の時などにも大きな情報源になります。地域の情報もタイムリーに流していますので、生活の中でご活用いただければと思います。

播磨町長 清水ひろ子

わんぱくはりまっ子



松本 健志郎くん(3歳)、晃演くん(5ヵ月)
北野添
なかよく、たくましくそだってね
(父母より)



このコーナーに出ていただく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(未就学児) 広報担当まで電話をお願いします。

楽屋裏

トピックスで紹介した狐狸ヶ池のオニバス観覧会に行きました。オニバス以外にもメダカ、タモロコなどの淡水魚やマツモ、タヌキモなど水質の良い川や池で見られない水生植物も確認され豊かな自然を感じました。
角野康郎先生の講演では、水田で農作業をする人の傍らでコウノトリが紹介されました。人の暮らしと密接な場所である自然は、人の営みによって維持されている自然です。つまり、人の行為によって壊れてしまうものでもあります。
ため池の整備によって50年ぶりに復活したオニバスは、このまちに暮らす私たちにメッセージを伝えるために芽吹いたような気がしました。(宮)

あいわーくかがわより 天然ガス自動車 を寄贈いただきました

(加古川中小企業勤労者福祉サービスセンター(通称あいわーくかがわ)が設立10周年を迎えるにあたり、地球貢献事業の一環として、排出ガスがクリーンな地球環境にやさしい低公害車である天然ガス自動車を寄贈いただきました。



播磨西小学校1年生児童が、 交通安全街頭啓発をしました

9月21日(金)の朝7時30分から8時まで、播磨町駅を利用する人たちに交通安全をお願いする街頭啓発活動が行われました。
播磨西小学校の1年生10人は、警察官の制服と制帽姿ではにかみなが「おはようございます」と声を掛けながらポケットティッシュを手渡し、交通マナーの向上をお願いしました。



交通安全街頭指導員の高橋澄江さんが、 県知事感謝状を受けられました

12年の長きに渡って、播磨町交通安全街頭指導員として、交通安全のために努力をしてこられた高橋さんの功績に対し、兵庫県知事感謝状が贈られました。
高橋さんは、毎日、交通量が多くの危



▲毎日、ごくろうさまです

狐狸ヶ池に絶滅危惧種「オニバス」が50年ぶりに発生。観覧会がありました。

県立考古博物館の開館にあわせて整備した狐狸ヶ池で、絶滅が心配されるスレンド科の水生植物オニバスが発生しました。9月24日(祝)に観覧会が開かれ、博物館の講堂で角野康郎氏(神戸大学大学院教授)からオニバスの生態についての解説を聞き、その後狐狸ヶ池に移動して観覧しました。
「オニバスは池で遊ぶと、オニバスの下で傷だらけになったことがある。もう50年前です」と、久しぶりのオニバスの発生に驚く人や、「池のすぐ横に住んでいるので、興味があつてきました」という近所の方も参加していました。
※主催 いなみ野ため池ミュージアム



運営協議会、兵庫水辺ネットワーク、県立考古博物館。協賛 大中狐狸ヶ池を守る会(三処来会)

険性の高い場所です登下校する児童の安全な保護誘導に努めておられます。現在は播磨西小学校区域で指導をされており、その優しい笑顔と人柄で、児童はもとより、地域の皆さんからも深く感謝されています。
高橋さんは、受賞の報告に照れながらも、「今後も多くの方の交通安全のために熱意ある指導を続けたい」と語ってくれました。

親子で楽しむ町内の文化財 パートII

8 播磨小学校のクスノキ

今月は、播磨小学校のクスノキを紹介しましょう。播磨小学校の校庭の中ほどに、あたかも取り残されたように、クスノキが一本だけ、緑の木陰をつくっているのをご存じの方も多いと思います。



▲100年以上も子どもたちを見守る木



- 【クイズ】
- さて、よく聞かれますが、このクスノキは、当初からの木で、この場にあったのでしょうか。
- ① 少し西にあったのを、こゝへ植え直した
 - ② 当初から、この場所に、同じ木があった
 - ③ この木が枯れたので、同じ場所にクスノキを植えた

「歴史の宝宝箱」と言われている播磨町。町の面積は狭いけど、文化財の数は多く、少し歩けばそこかしこに、地域の人びとが昔から大切に受け継いできたものがあります。そのような街角の文化財を紹介していきます。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000

播磨小学校の前の名称「阿あ閑いん小学校」は、明治17年(1884)にできます。その後も名称が変わり、明治33年(1900)に、今の場所に校舎ができます。このとき、記念の植樹として、8本のクスノキが、この木から東に一列に並んで植えられました。クスノキが選ばれたのは、「くすのき学問」といわれるように、成長は遅くても、大木になるよとの願いを込めたといわれています。さらに、この8本の木には、「クスノキマサシゲ」と、8文字の愛称がありました。

このときから、子どもたちを見守りながら昭和23年(1948)まで大きくなっていました。しかし、この年、校庭の拡張のため、西端にあったこの木だけをそのまま残し、他は切ってしまうのです。おかげで、運動場は広くなり、運動会ものびとびとできるようになりました。

その後も校庭は広くなり、西の隅にあったこの木も、校庭に取り残されるかたちになっていきます。校庭を広げるにあたり、クスノキの植え直しも考えられましたが、あえて歴史を語る木としてそのまま残しました。そして今では、播磨町の指定文化財となり、大切にされています。



●クイズの答 ② 当初から、同じ木がその場にあった



町の人口 10月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)
 34,303人(±0人) 男…16,789人(-9人) 世帯数…13,240(-1)
 女…17,514人(+9人)